

施策評価シート（評価対象年度：令和5年度）

基本政策	1	子育て・教育・学び
主要施策名	4	郷土の歴史・文化
5年後の まちの姿	○歴史・文化に触れることを通じて、多くの市民が郷土への関心や愛着を深めています。 ○歴史・文化に関心を持つ市民による自主的な取組が生涯学習活動や地域の活性化につながっています。	
施策展開の 基本的な考え方	行政は、まちの財産である文化財等の保存・継承に責任を持つとともに、その実現のために文化財等の魅力を伝え、その活用を図ります。 市民等は、身近なまちの歴史や文化に関心を持ち、その魅力について周りに積極的に伝えることに努めます。	
実現に向けた 取組	①文化財の調査と保護 ②伝統文化の保存と継承 ③歴史・文化資源を生かした地域の活性化	
施策担当課	生涯学習課	
施策関係課・係	-	

I 施策の実施状況

1 施策全体の事業費

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業費（千円）	40,232	54,156			
事務事業数	9	11			
うち、事務事業評価対象	9	9			

2 成果指標の達成状況

指標	単位	基準値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度 最終目標
国県市指定文化財数〔累計〕	件	100	100	100				102
伝統芸能等保護活動団体数	団体	10	10	10				10
文化財施設（奥山荘歴史館、黒川郷土文化伝習館、シンクルトン記念館、胎内市美術館および桃崎浜文化財収蔵庫）の入館者数〔年間〕	人	11,564	8,358	10,181				12,000
成果指標による 現状分析	国県市指定文化財数〔累計〕については、指定数は昨年度と同数であるが、城の山古墳からの出土品の国指定などについて、県・国と協議して進めていきたい。 伝統芸能等保護活動団体数については、各団体とも後継者育成に努め、持続的な活動を行っている。 文化財施設（奥山荘歴史館、黒川郷土文化伝習館、シンクルトン記念館、胎内市美術館及び桃崎浜文化財収蔵庫）の入館者数〔年間〕については、コロナ禍で入場制限をしていたイベントを通常どおり再開し、学校等の教育機関に積極的にPRしたことにより入館者数の増加に繋がった							

3 施策の進捗状況

達成度	○概ね順調
評価の理由	◆文化財の調査と保護、伝統文化の保存と継承、歴史・文化資源を活かした地域の活性化について計画的に事業を行った。また、文化財保存活用地域計画策定に当たり、住民アンケートを実施したほか、協議会を開催し成果を得た。国県市指定文化財数については、目標の98%以上を達成し、伝統芸能等保護活動団体数についても目標値の100%を達成・維持している。文化財施設の入込数については、増加しており、特に胎内市美術館や黒川郷土文化伝習館については、郷土の歴史文化を紹介する企画展を開催し、令和4年度より入館者数が1,823人（21.8%）増加している。

4 取組の状況と今後の方向性

① 文化財の調査と保護

施策の内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な歴史・文化資源が失われないよう、遺跡の調査・発掘、郷土資料の収集・保管、収集済の文化財の保存・活用を計画的に行います。 ・分散して立地している複数の文化財関連施設で巡回展を開くなど、市民が多くの歴史・文化に触れ、学ぶことができる機会を提供します。
これまでの主な取組と実績	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆遺跡の調査・発掘については、関連機関と協議して計画どおりに実施した。郷土資料の収集についても積極的に対応した。歴史文化資源の保管、収集済の文化財の保存・活用については美術館や資料館での展示公開を計画的に行った。 ◆文化財関連施設で歴史文化を紹介する展示会を開催するなど、市民が多くの歴史・文化に触れ、学ぶことができる機会を提供した。
主な課題と今後の対応	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆遺跡の調査・発掘については専門職員の不足が課題の一つといえる。郷土資料の収集、歴史文化資源の保管、収集済の文化財の保存・活用については継続して行い、美術館、資料館での展示公開を計画的に進める必要がある。 ◆文化財関連施設で歴史文化を紹介する展示会を例年開催し、市民が多くの歴史・文化に触れ、学ぶことができる機会を今後も提供していく。

② 伝統文化の保存と継承

施策の内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習や地域活性化の取組と連携して、各集落に伝わる神楽舞や獅子舞等の伝統芸能や祭り等の行事を継承する団体等への新たな支援策を検討します。 ・学校との連携により、総合学習やふるさと体験学習の中で、子どもが地域の歴史や伝統芸能に触れる機会を増やします。
これまでの主な取組と実績	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆各集落に伝わる神楽舞や獅子舞等の伝統芸能や祭りなどの行事を継承する団体にアンケート調査を実施し、支援を検討して実施した。 ◆学校との連携により、総合学習やふるさと体験学習の中で、子どもたちが地域の歴史や伝統芸能に触れる機会を提供した。また、小学校に伝統文化を伝える出前授業を実施した。
主な課題と今後の対応	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆後継者不足、道具の維持管理などが課題といえ、地域全体で保存活用する仕組みを検討する。 ◆学校側が児童生徒に学ばせたいこと、伝統芸能団体が児童生徒に伝えたいことを相互理解し、持続可能な継承事業を実施していく。

③ 歴史・文化資源を生かした地域の活性化

施策の内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財シンポジウムの開催や説明板の設置、既存の史跡公園等施設の積極活用や ICT を活用した文化財に関する多角的な情報発信に取り組めます。 ・寺・神社を中心とした祭礼等の営み、周りの市街地景観といった周辺環境も含めた文化財を取り巻く歴史的風致の維持等に取り組めます。 ・地域の活性化に取り組む市民団体の支援や地域の魅力発見やモデルルートの作成、語り部育成講座の開設等を通じて、その土地の物語を掘り起こし、発信する取組を支援します。
これまでの主な取組と実績	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史講座の開催、文化財説明板の新設、既存の史跡公園等施設を活用したイベントを実施し、情報発信に取り組んだ。 ◆寺・神社を中心とした祭礼や周りの市街地景観を含む文化財を取り巻く歴史的風致の維持等に取り組むため、文化財保持・活用関係者にアンケート調査を実施した。 ◆地域の活性化に取り組む市民団体の支援を行った。地域の魅力を発見するモデルルートを作成した。また、昔語りの公開講座を通じて、その土地の物語を掘り起こし発信した。
主な課題と今後の対応	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史講座の開催、文化財説明板の新設、既存の史跡公園等施設を活用したイベントを計画的に実施し、更なる情報発信に取り組んでいく。そのためには市民ボランティアの育成が課題である。 ◆文化財を取り巻く歴史的風致の維持等に取り組むため、文化財保存活用地域計画を策定し、関係者と協議して事業を進めていく。 ◆地域の活性化に取り組む市民団体との連携を強化し、さらなる地域の魅力を発見するモデルルートを作成していく。また、聞き取り調査により、その土地の物語を掘り起こし発信していく。

5 施策の今後の方針

施策方針	○ 維持
施策方針に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆貴重な歴史・文化資源が失われないよう、遺跡の調査・発掘、郷土資料の収集・保管、収集済の文化財の保存・活用を計画的に行う。分散して立地する複数の文化財関連施設で巡回展を開くなど、市民が多くの歴史や文化に触れ、学ぶ機会を提供する。まちの財産である文化財等の保存・継承に責任を持ち、その実現のために文化財等の魅力を伝え、活用を図る。

II 施策を構成する事業等

事業 コード	事務事業名	R5		R6		達成度	今後の 方向性	担当課
		事業費	うち 一般財源	当初予算額	うち 一般財源			
140110	文化財保護事業	5,510	5,506	3,220	3,210	◎	③	生涯学習課
140111	史跡整備事業	4,994	1,631	6,747	3,304	◎	②	生涯学習課
140112	遺跡発掘調査事業	13,458	6,258	14,321	10,804	△	②	生涯学習課
140310	中条まつり事業	7,354	7,221	7,469	7,264	○	③	商工観光課
140320	郷土文化伝習館運営事業	2,518	2,368	3,239	2,889	○	③	生涯学習課
140321	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館） 運営事業	1,245	1,215	1,122	1,092	◎	②	生涯学習課
140322	史跡等総合活用事業	3,630	1,969	6,563	4,152	×	③	生涯学習課
140323	奥山荘歴史の広場等運営事業	2,249	2,216	3,476	3,241	◎	③	生涯学習課
140324	美術館運営事業	11,131	10,065	14,616	13,756	○	③	生涯学習課

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140110		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者	
事務事業名	文化財保護事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	01	文化財の調査と保護		06	社会教育費
			小	10	文化財保護事業		03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		○	根拠法令	文化財保護法			
	法令による義務付け			関連法規			関連計画	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	文化財を適正に管理等するために、文化財保護審議会等の開催や指定団体に補助金を交付する。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営管理 文化財保護審議会の開催 文化財整備事業 指定文化財等保存事業補助金交付
実施方法	市が直接実施＋補助・負担

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○	◎			
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 目標をおおむね達成した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

<ul style="list-style-type: none"> 草刈りなどを行い適切な管理を実施した。 史跡等の看板を設置した。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	3,439	5,510	3,220		
国・県支出金	0	0	0		
地方債	0	0	0		
その他	575	4	10		
一般財源	2,864	5,506	3,210	0	0
人件費（千円）	56	56	0	0	0
正(h) ※事業費 ※事業 任用(h) 業務	30	30	0	0	0
0	0	0	0	0	0
総事業費＋人件費	3,495	5,566	3,220	0	0
財源「その他」内訳	桃崎浜文化財取蔵庫入館料 4千円				
事業費の主な支出内容	施設管理・警備委託1,676千円 補助金及び負担金77千円				
単位コスト					
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地域の文化財を地域の方々と整備し、看板を設置した。

7 事業の課題

市内に存在する文化財の洗い出しや、埋もれた文化財などの調査が不十分である。今後ワークショップ等を開催し、地域総がかりで、文化財保護活用計画を作成する必要がある。胎内市が後世に残すべき文化財を抽出し、既存の文化財、文化施設の活用、整備について計画する必要がある。
--

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等
	目標	67件	67件	67件	67件
	実績	65件	66件		
成果指標	名称	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等	指定文化財の看板整備等
	目標	1件	1件	1件	1件
	実績	3件	2件		
	目標比	300%	200%		

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	②	③			
これまで以上に文化財の定期的な点検を行い、適切な保護のもと、事業を推進していく。					

9 二次評価委員会所見

産出指標、成果指標について見直しを行うこと。

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140111		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	史跡整備事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	01	文化財の調査と保護		項	06	社会教育費
			小	11	史跡整備事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		○	根拠法令	文化財保護法				
	法令による義務付け			関連例規			関連計画		
	自治事務								
	努力義務+任意								

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	国史跡奥山荘城館遺跡及び国史跡城の山古墳等の史跡整備に関するもの。
主な実施内容	史跡城の山古墳公有化、城の山古墳整備基本計画の策定。文化財保存活用地域計画の策定。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎	◎			
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 目標どおりおおむね達成できた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

奥山荘城館遺跡は随時整備を進めており、城の山古墳整備基本計画に基づき計画的に実施する予定である。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	865	4,994	6,747		
国・県支出金	0	3,363	3,443		
地方債	0	0	0		
その他	0	0	0		
一般財源	865	1,631	3,304	0	0
人件費（千円）	300	300	0	0	0
正（h）※事業費 ※事業責任（h）※業務費	160	160	0	0	0
総事業費+人件費	1,165	5,294	6,747	0	0
財源「その他」内訳					
事業費の主な支出内容	城の山古墳整備委員報償費・旅費 205千円 胎内市文化財保存活用地域計画策定業務3,670千円				
単位コスト					
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	検討中
具体的な状況	令和11年オープン予定の城の山古墳公園について、史跡整備計画に基づき、将来的に古墳祭り等のイベントを地域の方々と協働で行うことを検討する。

7 事業の課題

史跡整備基本計画を推進し、文化財保存活用地域計画を策定するために住民ニーズを把握する必要がある。

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	公有化面積	公有化面積	公有化面積	公有化面積	
	目標	0㎡	0㎡	0㎡	2,000㎡	
	実績	0㎡	0㎡			
成果指標	名称	史跡整備終了地	史跡整備終了地	史跡整備終了地	史跡整備終了地	
	目標	6地点	6地点	6地点	6地点	
	実績	6地点	6地点			
	目標比	100%	100%			

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	①	②			
	城の山古墳が令和元年2月26日付けで国史跡に指定。今後、市民の意見を聞きながら整備基本計画を推進し、史跡整備を実施していく。 奥山荘城館遺跡については、鳥坂城跡の確認調査が令和2年度で完了したため、計画的に看板等を設置するなど、周知化を図る。史跡地購入については、財源の絡みから財政課と協議・検討する必要がある。令和3年度に城の山古墳整備基本計画を策定したため、令和11年の史跡公園オープンに向けて、次年度以降、発掘調査、実施設計、実施工事など史跡整備に取り掛かる予定。文化財保存活用地域計画については、令和7年の国の認定後、事業を進めていく。				

9 二次評価委員会所見

産出指標、成果指標について見直しを行うこと。

		今後の方向性				
成果の方向性	拡充	×	④	②	①	
	維持	×	⑤	③	×	
	縮小	×	⑥	×	×	
	休廃止	⑦	×	×	×	
	削減	縮小	維持	拡大		
		コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140112		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	遺跡発掘調査事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	01	文化財の調査と保護		項	06	社会教育費
			小	12	遺跡発掘調査事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務	○	自治事務	○	根拠法令	文化財保護法	関連計画		
	法令による義務付け		義務＋任意		関連例規				

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	緊急調査及び重要遺跡・史跡の発掘調査に関するもの。
主な実施内容	個人住宅・開発に関わる確認調査を3件実施した。 また、圃場整備事業に伴い実施した七の割遺跡発掘調査の報告書を刊行した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎	△			
評価の理由	令和5年度に事業を実施した2件のうち1件の報告書を作成した。				

◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない

5 主な取組と実績（令和4年度～）

主な取組と実績	苔実地区ほ場整備事業に伴う発掘調査
---------	-------------------

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	10,853	13,458	14,321		
国・県支出金	1,140	1,710	3,490		
地方債	0	0	0		
その他	9,360	5,490	27		
一般財源	353	6,258	10,804	0	0
人件費（千円）	1,311	1,311	0	0	0
正（h）※事業費 ※任用（h）※事業費	700	700	0	0	0
0	0	0	0	0	0
総事業費＋人件費	12,164	14,769	14,321	0	0
財源「その他」内訳	発掘調査負担金 5,490千円				
事業費の主な支出内容	人件費 8,685千円、物件費 4,773千円、				
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	検討中
具体的な状況	遺跡現地説明会や体験発掘等について、地域や教職員の方々と協働で実施することを検討中。

7 事業の課題

事業の課題	発掘出土品の適切な保管や活用方法の充実について検討が必要である。
-------	----------------------------------

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数	発掘調査数	
	目標	3件	3件	2件	2件	
	実績	4件	3件			
成果指標	名称	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数	報告書作成数	
	目標	2件	2件	2件	2件	
	実績	2件	1件			
	目標比	100%	50%			

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③	②			
今後の方向性	個人住宅建設に伴う確認調査などの小規模な調査が続いているが、県営圃場整備事業に伴う大規模な調査が令和3年度以降始まった。文化財保存活用地域計画策定作業も推進するため、計画的に対応できる人材を育成し、文化財保護に遺漏がないように対応する必要がある。 なお、史跡整備に伴う鳥坂城跡の確認調査は、令和2年度で完了し、次年度以降に苔実地区、鍛江地区などの県営圃場整備事業に伴う本発掘調査を実施した。また、一般廃棄物最終処理場建設にかかる本調査を令和7年に予定している。				

9 二次評価委員会所見

二次評価委員会所見																																									
今後の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>◎</td> <td>④</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>◎</td> <td>⑤</td> <td>③</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>◎</td> <td>⑥</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>拡大</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </table>	拡充	◎	④	②	①	維持	◎	⑤	③	◎	縮小	◎	⑥	◎	◎	休廃止	◎	◎	◎	◎	削減	◎	◎	◎	◎	縮小	◎	◎	◎	◎	維持	◎	◎	◎	◎	拡大	◎	◎	◎	◎
拡充	◎	④	②	①																																					
維持	◎	⑤	③	◎																																					
縮小	◎	⑥	◎	◎																																					
休廃止	◎	◎	◎	◎																																					
削減	◎	◎	◎	◎																																					
縮小	◎	◎	◎	◎																																					
維持	◎	◎	◎	◎																																					
拡大	◎	◎	◎	◎																																					
コスト投入の方向性																																									

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140310		担当課	商工観光課	担当係	商工振興係	担当者	
事務事業名	中条まつり事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14 郷土の歴史・文化		予算科目	款	07 商工費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	03 歴史・文化資源を生かした地域の活性化			項	01 商工費
			小	10 中条まつり事業			目	02 商工業振興費
事務区分	法定受託事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意	関連例規	中条まつり補助金交付要綱		関連計画	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	伝統芸能である山車のおおりにあいななどのイベントや露店の円滑な運営による祭りを通じた地域活性化を行う。
主な実施内容	来場者、参加者の安全確保、中条まつり実行委員会への補助、露店商の出店管理。
実施方法	市が直接実施+委託

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	×	○			
評価の理由	まつり最終日は、荒天のため来場者が少なくなったものの、開催日トータルでは目標値の83.3%とおおむね達成できたと考えられる。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

令和元年度以降4年振りの開催となり、本来であれば令和2年度から実施予定であった出店料の値上げを令和5年度から行った。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	824	7,354	7,469		
国・県支出金	0	0	0		
地方債	0	0	0		
その他	0	133	205		
一般財源	824	7,221	7,264	0	0
人件費（千円）	150	225	0	0	0
正(h) ※事業費 委託年度 ※事業 任用(h) 費	88	160	0	0	0
総事業費+人件費	974	7,579	7,469	0	0
財源「その他」内訳	中条まつり出店手数料 133千円				
事業費の主な支出内容	中条まつり事業補助金：7,060千円、ごみ収集委託料：96千円				
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	実施主体は中条まつり実行委員会（会長：市長、事務局：中条町商工会）であり、市からの補助金で運営されているが、露店に関するなどは商工観光課が担当しており、協働で開催している。

7 事業の課題

・年々露店の出店者が減少傾向にあったことに加え、コロナ禍で露店出店が中止となっており、再開した際には、さらなる減少が考えられるため、出店者数を確保する方法を考える必要がある。

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	露店出店数（3日間延）	露店出店数（3日間延）	露店出店者数（3日間延）	露店出店者数（3日間延）
	目標	300件	300件	300件	300件
	実績	0	245件		
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数
	目標	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人
	実績	0	25,000人		
	目標比	0.0%	83.3%		

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③	③			
露店商が減少傾向にあるため、出店範囲を集約することで賑わいを創出するなど、開催方法を変えていく必要がある。					

9 二次評価委員会所見

		今後の方向性				
成果の方向性	拡充	×	④	②	①	
	維持	×	⑤	③	×	
	縮小	×	⑥	×	×	
	休廃止	⑦	×	×	×	×
	削減	縮小	維持	拡大		
		コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140320		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者	
事務事業名	郷土文化伝習館運営事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計	
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		06	社会教育費
			小	20	郷土文化伝習館運営事業		08	郷土文化伝習館費
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令	文化財保護法		
	法令による義務付け		努力義務+任意		関連例規	黒川郷土文化伝習館設置条例	関連計画	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	郷土文化伝習館の運営管理を行う。
主な実施内容	郷土文化伝習館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また小中学校の校外学習、体験学習を年間実施した。併設する美術館と共通券を発行し、共同で企画展、講演会、資料の収集等を行った。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○	○			
評価の理由	市民を始め、小中学校生徒や、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えることができた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

県から譲与された埋蔵文化財や、寄贈民具、美術館所蔵品を加えて定期的に展示替えを実施した。また、小中学校の学習テーマに合わせ、縄文・弥生・民俗の体験展示コーナーを見直した。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
総事業費（千円）	2,484	2,518	3,239			
国・県支出金	0	0	0			
地方債	0	0	0			
その他	161	150	350			
一般財源	2,323	2,368	2,889	0	0	
人件費（千円）	150	150	0	0	0	
正(h) ※事務費	80	80	0	0	0	
※専任任用(h) ※事務費	0	0	0	0	0	
総事業費+人件費	2,634	2,668	3,239	0	0	
財源「その他」内訳	黒川郷土文化伝習館入館料 117千円、黒川粉食文化体験館体験料 33千円					
事業費の主な支出内容	会計年度給与1,163千円 警備委託227千円 需要費782千円					
単位コスト	算出方法					
	実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施・検討中
具体的な状況	火起こし・弓矢体験のお手伝いをサポーターの方々にしていただいた。

7 事業の課題

平成17年の町村合併以来の歴史資料や考古資料の増加などにより展示構成を見直す時期となっている。また校外学習の利用率が高く、市の学習拠点として明確に位置づけていく必要がある。

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	210日	210日	210日	210日	
	実績	210日	210日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	47団体	47団体	47団体	47団体	
	実績	44団体	46団体			
	目標比	94%	97%			

8 課題解決に向けた今後の取組

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
今後の方向性	③	③			
	会計年度任用職員、正職員のスキルアップを図り、事業に対する明確な目標を設定する。具体的にはここでしか体験できない昔のくらしや民具を体験するコーナーの整備PR、勾玉づくり、火起こしなど体験学習メニューの充実などを図り積極的にPRする。また美術館と連携した企画展を実施し、利用者数を伸ばしていくこととする。				

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140321	
事務事業名	郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業	
担当課	生涯学習課	担当係 文化・文化財係 担当者
事業年度	令和5年度	
基本政策	1 子育て・教育・学び	会計区分 一般会計
主要施策	4 郷土の歴史・文化	大 14 郷土の歴史・文化
		中 03 歴史・文化資源を生かした地域の活性化
		小 21 郷土文化保存伝習施設（シンクルトン記念館）運営事業
事務区分	法定受託事務	自治事務 ○
	法令による義務付け	努力義務+任意
	根拠法令	文化財保護法
	関連法規	郷土文化保存伝習施設設置条例
		関連計画

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	シンクルトン記念館の運営管理を行う。
主な実施内容	シンクルトン記念館を開館し、郷土の歴史文化を市内外に紹介した。また、小中学校の校外学習、体験学習を通年実施した。黒川燃水祭を通して地域の歴史伝承に貢献した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	◎	◎			
評価の理由	市民を始め、市外団体にも郷土の歴史文化を伝えた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

小中学生にわかりやすいようにパネルなどを増やし、展示替えを実施した。油井戸周辺、公園内のフェンス設置、補強などを実施し、体験活動の充実を図った。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	1,032	1,245	1,122		
国・県支出金	0	0	0		
地方債	0	0	0		
その他	19	30	30		
一般財源	1,013	1,215	1,092	0	0
人件費（千円）	75	75	0	0	0
正(h) ※事業費 ※専任(h) ※事業費	40	40	0	0	0
0	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	1,107	1,320	1,122	0	0
財源「その他」内訳	シンクルトン記念館入館料 30千円				
事業費の主な支出内容	警備・浄化槽委託72千円、需要費329千円、借地料54千円				
単位コスト	算出方法				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地元保存会の方々と黒川燃水祭を協働で実施した。

7 事業の課題

国内でも極めて珍しい施設であり、いかにPRしていくかが課題である。また公園内遊歩道の誘導整備も必要。ボランティアガイドの育成や、保存会メンバーの人員増加なども急務である。

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	10日	10日	20日	20日	
	実績	11日	17日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	5団体	5団体	15団体	15団体	
	実績	5団体	5団体			
	目標比	100%	100%			

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③	②			
利用状況に応じた開館日に見直し、効率的な運営を行うことで、今後も経費の削減を図る。予約時のみ開館とするが、土日に集中するため、地元へ管理委託することや市民協働で対応できる体制づくりに努める。本公園のメインである油坪を全面に押し、修学旅行の誘致に努める。また、石油関連企業との事業におけるタイアップを模索していく。					

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140322		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	史跡等総合活用事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
			小	22	史跡等総合活用事業		目	03	文化財保護費
事務区分	法定受託事務		○	根拠法令	文化財保護法				
	法令による義務付け			関連例規			関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	史跡等の活用に関するイベント、学校への出前授業等を行う。
主な実施内容	板額の宴を実施し、歴史講演会等を実施した。また、城の山古墳出土の剣・玉類・工具類・靱蓋を復元した。偉人漫画「板額御前」を制作し、出前授業を行う。
実施方法	市が直接実施+委託

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	△	×			
評価の理由	新型コロナウイルス感染症対策を施し、黒川燃水祭、板額の宴を規模を縮小して実施したため、参加者数は低調となった。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

史跡を紹介するビデオや発掘出土品のレプリカを活用し、市内小学校等で出前授業を行った。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	7,441	3,630	6,563		
国・県支出金	1,500	1,661	2,411		
地方債	0	0	0		
その他	3,000	0	0		
一般財源	2,941	1,969	4,152	0	0
人件費（千円）	94	94	0	0	0
正(h) ※事業費 ※事業費 ※事業費 ※事業費	50	50	0	0	0
委任(h) ※事業費 ※事業費	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	7,535	3,724	6,563	0	0
財源「その他」内訳					
事業費の主な支出内容	印刷製本費1,479千円 イベント委託費2,498千円 イベント借上料137千円				
算出方法	総事業費/イベント・講演会の参加人数				
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	8,267円	3,945円			

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	板額会と協働で偉人漫画の制作及び、イベント「板額の宴」を実施した。

7 事業の課題

史跡の保管、活用団体の育成や次世代への継承方法などの検討が必要である。

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	イベント数	イベント数	イベント数	イベント数	
	目標	4回	4回	4回	4回	
	実績	3回	4回			
成果指標	名称	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	イベント・講演会の参加人数	
	目標	2,600人	2,600人	2,600人	2,600人	
	実績	900人	920人			
	目標比	35%	35%			

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③	③			
	市民協働イベントとしての板額の宴のより良い継続スタイルを考える。史跡城の山古墳の出土品のレプリカや板額御前の偉人漫画を活用した学校等への出前授業や校外授業を、板額会を始めとする市民団体と連携して実施する。また、史跡についての歴史講演会等を実施し、「歴史のまち胎内」を市内外にPRしていく。史跡をより良く知ってもらうため、各施設（胎内市美術館・奥山荘歴史館・黒川郷土文化伝習館）と連携し、史跡と点と点をつなげていく。				

9 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140323		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者	
事務事業名	奥山荘歴史の広場等運営事業			事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計
基本政策	1	子育て・教育・学び		大	14 郷土の歴史・文化		予算科目	10 教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化		中	03 歴史・文化資源を生かした地域の活性化			06 社会教育費
				小	23 奥山荘歴史の広場等運営事業			03 文化財保護費
事務区分	法定受託事務		自治事務	○	根拠法令	文化財保護法		
	法令による義務付け		努力義務+任意		関連例規	奥山荘歴史の広場条例		関連計画

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	奥山荘歴史の広場等の運営管理を行う。
主な実施内容	奥山荘歴史館の運営管理を実施し、江上館・坊城館・韋駄天山遺跡等の除草管理・野外トイレ管理等を実施した。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	2,221	2,249	3,476		
国・県支出金	0	0	0		
地方債	0	0	0		
その他	40	33	235		
一般財源	2,181	2,216	3,241	0	0
人件費（千円）	94	94	0	0	0
正(h) ※事業費 ※事業 ※事業 任用(h) 業務費	50	50	0	0	0
総事業費+人件費	2,315	2,343	3,476	0	0
財源「その他」内訳	奥山荘歴史館入館料 17千円、奥山荘歴史の広場展示解説書等販売収入 16千円				
事業費の主な支出内容	会計年度給与520千円 需要費700千円 警備委託・空調点検委託810千円				
単位コスト	算出方法				
	実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度

3 指標値の状況

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	
	目標	81日	81日	81日	81日	
	実績	81日	81日			
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数	
	目標	12団体	12団体	17団体	17団体	
	実績	11団体	12団体			
	目標比	91%	100%			

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○	◎			
評価の理由	コロナ禍の影響下ではあるが、開館日数及び団体数ともに目標をほぼ達成した。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

開館日を令和元年度から土日祝日とし、平日は予約制とし、運営費の削減に努めている。

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	地域の方々と広場内の草取り作業を協働で実施した。

7 事業の課題

大きな単発的なイベントだけではなく、いつでも体験できるワークショップの実施なども必要。会計年度任用職員のスキルアップも図る。

8 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	③	③			
利用状況に応じた開館日に見直して効率的な運営を行うことで、経費の削減を図る。史跡城の山古墳、史跡江上館を市の歴史拠点として価値づけし、学校の授業、校外学習でも活用してもらおう新たな体験メニューなどを考え積極的にPRを行う。					

9 二次評価委員会所見

成果の方向性	今後の方向性				
	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
	削減	縮小	維持	拡大	
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和5年度事業）

事業コード	140324		担当課	生涯学習課	担当係	文化・文化財係	担当者		
事務事業名	美術館運営事業		事業年度	令和5年度		会計区分	一般会計		
基本政策	1	子育て・教育・学び	大	14	郷土の歴史・文化	予算科目	款	10	教育費
主要施策	4	郷土の歴史・文化	中	03	歴史・文化資源を生かした地域の活性化		項	06	社会教育費
			小	24	美術館運営事業		目	14	美術館費
事務区分	法定受託事務		○	自治事務		○	根拠法令	文化財保護法	
	法令による義務付け			義務+任意			関連法規	胎内市美術館設置条例	
							関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市民が種々の芸術に触れる機会を創出するために設置した美術館の運営管理を行う。
主な実施内容	年4回、胎内市にゆかりのある内容の企画展を開催した。また、子どもから大人までを対象としたワークショップや、演奏会、歴史講座を実施した。
実施方法	市が直接実施

4 達成度

達成度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	○	○			
評価の理由	入館者数が前年度より増加した。魅力ある企画展や豊富なワークショップ、各種講座を開催し、集客に務めた。				

5 主な取組と実績（令和4年度～）

小中学校の校外学習の場として利用した。また、年間パスポートの実施によりリピーターが増加し、利用者の利便性を高めた。サポーターズクラブメンバーとの協働により、美化活動・ワークショップ等を随時実施し、市民の視点からの改良も行った。地元に着目した展示を行い、地域の文化振興に大きく寄与していると言える。

2 事業費の状況（令和5年度以前は実績値、令和6年度は当初予算額）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
総事業費（千円）	11,073	11,131	14,616		
国・県支出金	0	0	0		
地方債	0	0	0		
その他	804	1,066	860		
一般財源	10,269	10,065	13,756	0	0
人件費（千円）	187	187	0	0	0
正（h）※事業費任用（h）※事業費	100	100	0	0	0
委託料	0	0	0	0	0
総事業費+人件費	11,260	11,318	14,616	0	0
財源「その他」内訳	胎内市美術館入館料 886千円、雇用保険料個人負担金180千円				
事業費の主な支出内容	会計年度給与4,583千円 需要費3,497千円 委託料638千円 備品購入費599千円				
算出方法					
実績	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 協働の状況

協働の状況	実施
具体的な状況	胎内市美術館サポーターズ倶楽部と美術館の環境整備やワークショップの準備などを協働で実施している。

7 事業の課題

- ・次世代へ確実に胎内市の芸術文化を継承していく。
- ・隠れた胎内市出身作家の発掘を行い、偉人の業績を伝えるような展示を心掛ける。
- ・広い視野での取組、例えば自然誌や胎内市に伝わる文化など、多方面の展示を展開し、美術館の概念を広くとらえ地域の文化振興の発展に帰するよう様々な取組など。
- ・作家と美術館と地域の方が、ともに成長していく道程の構築。

3 指標値の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	310日	310日	310日	310日
	実績	310日	310日		
成果指標	名称	利用団体数	利用団体数	利用団体数	利用団体数
	目標	52団体	52団体	70団体	70団体
	実績	48団体	49団体		
	目標比	92%	94%		

8 課題解決に向けた今後の取組

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
今後の方向性	③	③			
	年4～5回の企画展示会を円滑に進めるため、職員各自のスキルアップを図り、分担して効率的に事業を推し進める必要がある。経験や実績に基づき、事業内容に趣向を凝らしながら、事業運営の強化を関係機関と連携しながら図りたい。 無料の談話室スペースを活用した小展示や気軽に楽しめるワークショップを地域おこし協力隊の方々などとアイデアを凝らしながら実施し、市民に親しまれる美術館づくりを継続していきたい。				

9 二次評価委員会所見

今後の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	⑧		
コスト投入の方向性	削減	維持	拡大	